学習塾に求められる「高大接続改革」

講師紹介　神尾雄一郎

NPO法人ロジニケーション・ジャパン理事長
株式会社ジーワンラーニング代表取締役
開成中高弁論部監督（ディベート甲子園）

講演概要

１　「高大接続改革」とは

２　「思考探究ゼミ」が切り拓く学習塾の未来

1

「高大接続改革」とは

「高大接続改革」とは

大学入学者選抜の改善をはじめとする
高等学校教育と大学教育の
円滑な接続と連携の強化

「高大接続改革」とは

変化の激しい時代において
新たな価値を創造していく力を
育成することが最大の目的

① 1996年7月19日

文部省中央教育審議会
「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について（第一次答申）」

今日の変化の激しい社会にあって、いわゆる知識の陳腐化が早まり、学校時代に獲得した知識を大事に保持していれば済むということはもはや許されず、不断にリフレッシュすることが求められるようになっている

① 1996年7月19日

文部省中央教育審議会
「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について（第一次答申）」

加えて、将来予測がなかなか明確につかない、先行き不透明な社会にあって、その時々の状況を踏まえつつ、考えたり、判断する力が一層重要となっている

①　1996年7月19日

文部省中央教育審議会
「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について（第一次答申）」

さらに、マルチメディアなど情報化が進展する中で、知識・情報にアクセスすることが容易となり、入手した知識・情報を使ってもっと価値ある新しいものを生み出す創造性が強く求められるようになっている

①　1996年7月19日

文部省中央教育審議会
「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について（第一次答申）」

これからの子供たちに必要となるのは、いかに社会が変化しようと、自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力であり、また、自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心など、豊かな人間性である

① 1996年7月19日

文部省中央教育審議会
「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について（第一次答申）」

我々は、こうした資質や能力を、変化の激しいこれからの社会を［生きる力］と称することとし、これらをバランスよくはぐくんでいくことが重要であると考えた

② 1998年6月26日

文部省「中高一貫教育制度の導入に係る学校教育法等の一部改正について（通知）」

中等教育の多様化を一層推進し、生徒の個性をより重視した教育を実現するため、現行の義務教育制度を前提としつつ、中学校と高等学校の制度に加えて、中高一貫教育制度を選択的に 導入することとし、学校教育法上、新たな学校種として中等教育学校を創設するとともに、同一の設置者が設置する中学校及び高等学校において中高一貫教育を行う制度を設ける

② 1998年6月26日

文部省「中高一貫教育制度の導入に係る学校教育法等の一部改正について（通知）」

中高一貫校がいわゆる「受験エリート校」化することがあってはならないことや、受験競争の低年齢化を招くことのないよう、公立学校の場合には入学者の決定に当たって学力試験は行わない

③ 2012年8月28日

「大学入学者選抜の改善をはじめとする高等学校教育と大学教育の円滑な接続と連携の強化のための方策について（諮問）」

グローバル化、情報化、少子高齢化など社会構造が大きく変化し、先を見通すことの難しい時代にあっては、生涯を通じ不断に主体的に学び考える力、予想外の事態を自らの力で乗り越えることのできる力、グローバル化に対応し活力ある社会づくりに貢献することのできる力などの育成が特に重要となる

③ 2012年8月28日

「大学入学者選抜の改善をはじめとする高等学校教育と大学教育の円滑な接続と連携の強化のための方策について（諮問）」

このような力は、学校教育においては、各学校段階における質の高い教育と相互の有機的な連携を通じて育むべきものであり、そのために多くの関係者が努力を重ねている

③ 2012年8月28日

「大学入学者選抜の改善をはじめとする高等学校教育と大学教育の円滑な接続と連携の強化のための方策について（諮問）」

しかし、特に高等学校教育と大学教育との接続・連携については、大学入学者選抜制度の在り方を含め様々な課題が指摘されており、国民からの期待に十分には応え切れていないと言わざるを得ない

③ 2012年8月28日

「大学入学者選抜の改善をはじめとする高等学校教育と大学教育の円滑な接続と連携の強化のための方策について（諮問）」

高等学校教育、大学入学者選抜、大学教育は相互に密接に関連し合うものであり、そのいずれかに責任を帰すことによっては問題を解決することはできない

③ 2012年8月28日

「大学入学者選抜の改善をはじめとする高等学校教育と大学教育の円滑な接続と連携の強化のための方策について（諮問）」

このため、国内外の様々な教育の質保証のための仕組みや構想、高等学校教育及び大学教育に関する課題についての検討状況等を踏まえつつ、特に次の事項について、高等学校及び大学の関係者を含め、早急に議論を深める必要がある

・大学入学者選抜の改善をはじめとする高等学校教育と大学教育の円滑な接続と連携の強化のための方策について

④ 2016年3月31日

高大接続システム改革会議「最終報告」

身に付けるべき力として特に重視すべきは、（1）十分な知識・技能、（2）それらを基盤にして答えが一つに定まらない問題に自ら解を見いだしていく思考力・判断力・表現力等の能力、そして（3）これらの基になる主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

④ 2016年3月31日

高大接続システム改革会議「最終報告」

この（1）～（3）（これらを本「最終報告」において「学力の3要素」と呼ぶ。）の全てを一人一人の学習者が身に付け、予見の困難な時代に、多様な人々と学び、働きながら、主体的に人生を切り開いていく力を育てるものにならなければならない

④ 2016年3月31日

高大接続システム改革会議「最終報告」

小中学校において実践が積み重ねられてきたグループ活動や探究的な学習等の学習・指導方法の工夫の延長上に、受け身の教育だけではなく課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習（いわゆる「アクティブ・ラーニング」）の視点からの学習・指導方法の抜本的充実を図るなど、学習・指導方法の改善を進めることが必要

④ 2016年3月31日

高大接続システム改革会議「最終報告」

これからの時代においては、「何を知っているか」だけでなく、「知っていることを使ってどのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」という観点から、知識・技能、思考力・判断力・表現力等、人間性や学びに向かう力など情意・態度等に関わるものの全てを総合的に育んでいくことが求められる

④ 2016年3月31日

高大接続システム改革会議「最終報告」

「学力の3要素」を踏まえた指導が十分浸透していないことが課題として指摘されており、その背景として、現状の大学入学者選抜では、知識の暗記・再生や暗記した解法パターンの適用の評価に偏りがちであること、一部のAO入試や推薦入試においては、いわゆる「学力不問※」と揶揄されるような状況も生じていることなども指摘されている

※ここでいう「学力」は、「学力の3要素」を指す

④ 2016年3月31日

高大接続システム改革会議「最終報告」

推薦入試では「原則として学力検査を免除し」といった記載がなされているが、新たなルールにおいては、いずれの入学者選抜においても「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を適切に把握できるよう、こうした記載は削除すべき

④ 2016年3月31日

高大接続システム改革会議「最終報告」

具体的な教科・科目の履修を前提としない、例えば、小論文やプレゼンテーション等の形式で行われる評価については、現行でも2月1日より前から実施可能であることを明確化するとともに、こうした取組を促進する

⑤ 2018年10月22日

文部科学省「平成33年度大学入学者選抜実施要項の見直しに係る予告の改正について」

「学力の3要素」（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）を多面的・総合的に評価するものへと改善する

⑤ 2018年10月22日

文部科学省「平成33年度大学入学者選抜実施要項の見直しに係る予告の改正について」

＜推薦入試の課題の改善＞
「原則として学力検査を免除し」との記載を削除し、調査書・推薦書等の出願書類だけでなく、各大学が実施する評価方法等（※）又は「大学入学共通テスト」のうち、少なくともいずれか一つの活用を必須化する

※例えば、自らの考えに基づき論を立てて記述させる評価方法（小論文等）、プレゼンテーション、口頭試問、実技、各教科・科目に係るテスト、資格・検定試験の成績など

入試において
「小論文」を必須としている大学の割合

区分	割合	区分	割合	区分	割合
一般・国公立	25.0%	AO・国公立	22.9%	推薦・国公立	42.3%
一般・私立	4.5%	AO・私立	21.8%	推薦・私立	24.1%

※ 文部科学省「大学入学者選抜における英語4技能評価及び記述式問題の実態調査の結果・小論文出題状況」（2021年）をもとに筆者作成

※ 「一般」は一般選抜、AOは総合型選抜、推薦は学校推薦型選抜のことを指す

大学入試「小論文」頻出テーマ

○　テクノロジーの発展と社会への影響

AIの発達、情報化の進展、誹謗中傷、フェイクニュース、科学者や技術者の倫理など

○　グローバル社会における諸問題

異文化交流や宗教対立、先進国と発展途上国の関係性、難民や移民の受け入れなど

○　環境問題

地球温暖化や海洋汚染、SDGs（持続可能な開発目標）、資源・エネルギー問題、
食糧問題や農業のあり方など

高校入試・中学入試の変化

〇記述型問題の増加

〇高校推薦入試における小論文・作文試験・集団討論の実施

〇全国41都道府県に139校の公立中高一貫校の設置

〇プレゼンテーション入試やスマートフォン持ち込み可能な入試の登場

公立中高一貫校の入試

〇適性検査
知識の有無よりも深い思考力を求める教科横断型の検査

＜必要とされる能力＞
課題文や統計、写真や図から短時間で情報を読み取る「読み解く力」
与えられた資料から判断し、思考を重ねて答えを導き出す「考える力」
与えられた資料に基づき、自分の考えを論理的に表現する「書く力」

公立中高一貫校の入試

〇作文

与えられた課題について、課題文や資料から情報を取捨選択し、必要に応じて自分の体験や経験、知識を交えながら論理的に文章を構成する

→課題の発見や解決の工夫、社会課題に対する自分なりの意見

〇受験生本人の直筆による志望理由書

〇個人面接や集団面接、グループディスカッションなど

→自らの考えを分かりやすく伝える「話す力」

2

「思考探究ゼミ」が切り拓く学習塾の未来

「思考探究ゼミ」とは

■内容

「アクティブ・ラーニング」の手法を用いた「探究型」学習プログラム

■対象

小学4～6年生

（プログラム自体は無学年形式）

■授業の基本構成

1テーマあたり45～60分×4回での完結を想定

映像によるレクチャー＋教室現場でのワークで構成

本プログラムの特長

①入試改革全般に対応できる学力を養成

➢表現力（書く力・話す力）をはじめ、入試改革との関連で今後一層重視されることになる論理的・批判的思考力や コミュニケーション・協働力が身につく

②有名講師の映像講座と充実のテキスト

➢メディアでもお馴染みの金田一秀穂先生、パックン先生、サヘル・ローズ先生他、著名人がナビゲートする映像＋コラムつきの詳しいテキストで、非日常感覚で楽しく学べる

③詳細な指導マニュアルつき

➢「文章にまとめる」や「発表／話し合い」等の学習活動を運営するための詳細な「マニュアル」「解説映像」つき

基本的な授業の流れ

①レクチャー映像を見る

★映像が下記を担う
・学習テーマの提示と動機付け
・テーマ知識のレクチャー
・ALのスキルレクチャー
・アイスブレイク
・ミニワーク

②個人ワーク／グループワーク

★現場の先生がファシリテーション
・意見文・報告文をまとめる
・プレゼンテーション
・ディスカッション

③まとめ映像を見る

カリキュラム全体像

＜すべての学びに必要な基礎力＝ジェネリックスキル養成講座＞

書く力

話す力

読み解く力

＜社会課題に根差したテーマ別探究講座＞

環境とSDGs

テクノロジーと人間

グローバル化と
多様化する社会

テーマ①「書く力」

■ねらい

文章の書き方の基本を身につける

「意見文」「報告文」を書けるようになる

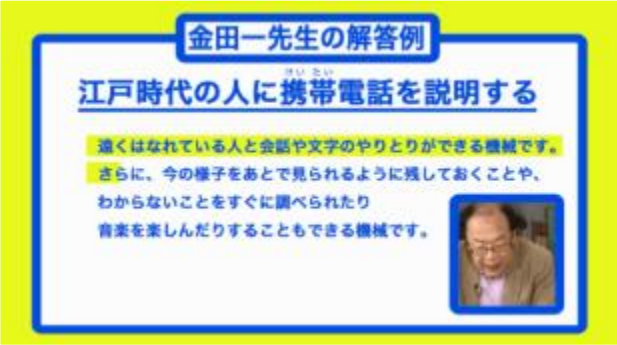
■構成：45～60分×4回

（1）「書くこと」の大切さと「書き方」のコツ

（2）文章の「基本」「型」「ルール」

（3）意見文の書き方のコツ

（4）報告文の書き方のコツ



テーマ②「話す力」

■ねらい

ミニゲームに取り組みながら、
思いや意見を言葉で伝えることの楽しさを知る
「プレゼンテーション」「ディスカッション」の基本を学ぶ

■構成：45分～60分×4回

（1）話し方・聞き方の基本
（2）プレゼンテーションの基本
（3）ディスカッションの基本
（4）グループディスカッション

テーマ③「読み解く力」

■ねらい

文章や資料を正確に読み取り、理解する力を身につける

正解が一つでない、複数答えのある問題に取り組む

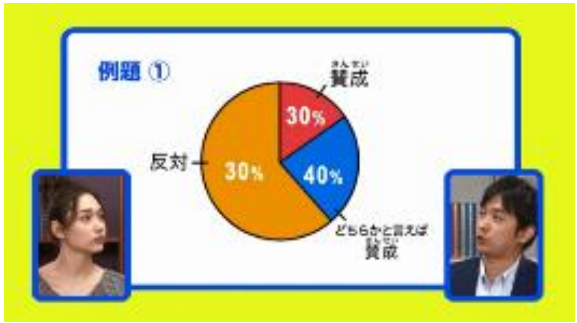
■構成：45分～60分×4回

（1）情報を正しく読み取る

（2）複数の情報を比較して整理する

（3）表・グラフの正しい見方と活用法

（4）絵・写真から読み取る



テーマ④「環境とSDGs」

■ねらい

環境問題（地球温暖化・ゴミ問題・水問題）の基礎知識を身につけるとともに、「自分事」として主体的に考え表現するSDGs について理解し、関心をもつ

■構成：45分～60分×4回

（1）地球温暖化と再生可能エネルギー
（2）私たちの暮らしと水
（3）ゴミと3R
（4）SDGsって何

テーマ⑤「テクノロジーと人間」

■ねらい

テクノロジーの利便性と課題点を考え、
議論するとともに「自分事」として主体的に考え表現する
「テクノロジー」の意味を正しく理解し、未来を作る力とする

■構成：45分～60分×4回

（1）「テクノロジー」とは？
（2）コンピューターとスマートフォン
（3）ロボットとAI
（4）テクノロジーと人間の未来

テーマ⑥「グローバル化と多様化する社会」

■ねらい

「グローバル化」「多様化」とは何か理解し、自分も
「グローバル化・多様化」する世界の一員だという視点を持つ

■構成：45分～60分×4回

（1）「グローバル化」とは？
（2）グローバル化する私たちの生活
（3）多様化する私たちの社会
（4）世界のためにできること

採用イメージ

〇月１回程度の**特別講座・フォロー講座用教材**
〇夏期講習や春期募集イベント等の**季節講習用教材**
〇過去問対策に繋げる**導入教材**
〇新型コロナウイルス感染症に対応した**オンライン教材**

受講者アンケートより

■書く力

書くのは、苦手だったけど、だんだん好きになってきて嬉しかったです。（4年生）

読み手のことを考えて、読み手に伝わりやすいように書くことが大切だということが勉強になりました。（4年生）

受講者アンケートより

■グローバル化と多様化する社会

グローバル化・多様化って何か最初はわからなかったけど自分たちにも深いかかわりがあることを知り、自分もできることがあるのかを考えていきたいと思えた。（6年生）

グローバル化をすることで自分の出身国以外にも仕事や学びの可能性が広がることが印象に残った。（6年生）

授業全体に関する先生の声

「話す力」はわかりやすくて良かった。

特に、話すときの姿勢、聞くときの姿勢についての説明が最初の授業であり、生徒たちも終始意識しながら取り組んでくれたと感じた。

「環境とSDGs」が非常に良かった。

生徒たちが興味を持ちやすい内容で、全員が意欲的に取り組むことができた。

授業全体に関する先生の声

何度も思考探究ゼミを受けている生徒は、思考探究ゼミが大好きなので、映像の視聴を含め前向きに取り組んでくれました。初めての生徒も、大きな刺激を受けてくれたかと思います。

保護者の方々からは、
こんなことまで塾で扱ってくれるんですね！と好評でした。